

県大初の快挙、全日本学生ポルトガル語弁論大会で優勝しました！

去る11月26日（土）、京都外国語大学において、第34回全日本学生ポルトガル語弁論大会が開催されました。本学からはヨーロッパ学科スペイン語圏専攻2年の上林麟（かんばやしりん）さんが出場し、見事、駐日ポルトガル大使賞（1位）の栄冠に輝きました。本学のほか、大阪大学、神田外語大学、天理大学、神奈川大学の5大学12名の学生が出場し、それぞれのテーマでポルトガル語による熱弁をふるいました。上林さんのテーマは、「A origem do meu sonho（私の夢の原点）」で、出身地でのブラジル人との出会いが将来の夢を考えるきっかけになったことを、エピソードを交えながら自分のことばで丁寧に主張しました。緊張のあまり、ポルトガル語を忘れてしまう出場者もいる中、最後まで堂々とした素晴らしい発表でした。



【真剣な表情で弁論開始】

体調がすぐれない日々もありました。専攻外国語の授業準備やテストもありました。そんな中で、一般教養外国語科目として履修しているポルトガル語の弁論大会の原稿を書いては直しの繰り返し、原稿完成後は発表練習に来る日も来る日も打ち込み、大会当日の朝まで少しの妥協も許さず練習しました。その努力が実を結び、このたびの優勝につながったと確信しています。ぜひ、自信をもって、でも、おごることなく、今後もポルトガル語の学習に邁進して欲しいと思います。



【出場者、審査員、大会関係者全員で記念撮影】

学生と同じ目標をもって戦えた日々は私、教員にとっても何ものにも代えがたい貴重な時間でした。結果発表の瞬間、自分が本当に幸せ者だと感じました。嬉しい、嬉しい優勝をプレゼントしてくれてありがとう！！

最後に、ポルトガル語非常勤講師の宮坂ヘジナ先生、ポルトガル語の原稿添削や練習にご協力いただきあ

ありがとうございました。また、教養外国語の「ポルトガル語Ⅱ」のクラスメイトのみなさん、みなさんからいただいた直筆のコメントや応援メッセージを大会に持参、そして、発表直前に再度読み返すことで、力を得たそうです。本当にありがとうね。そのほか、スペイン語の先生をはじめ、お世話になりました皆様に心より厚く御礼申し上げます。



【駐日ポルトガル大使からのカップの授与】



【やりました！】

文責：国際関係学科 高阪 香津美